

あわくら
歴史街道民俗文化民謡と
村人の暮らし

古くから歌い継がれてきた多くの民謡を始めとして、子守歌、わらべ歌に至るまで、それぞれの地域で日常生活の中から生まれた貴重な民俗文化も、急速な社会状況の変化により、多くの民謡は私達の生活の場から失われつつある現状から、岡山県下に伝承されている民謡の実態調査が昭和62～63年に亘って実施され、本村でも数名の方が本事業に参加しています。その後平成元年3月に『岡山県の民謡』が発刊されていますが、本村に伝承されている歌も、県下他市町村や、鳥取県智頭民謡誌に見られるように、かなり同様、共通したものの多いのに驚いています。

民謡と踊りが一体となった盆踊りも今は衰退してしまっていますが、そもそもの起こりは『村中総出の足踏みにより、目に見えない外敵を村の外に追い出す重要な信仰上の儀式でもあり、作業でもあった』訳で、それが供養踊りとなったり、配偶者探しの場となったり、殊に農山村では楽しい行事として受継がれてきました。盆踊りの起源は古く足利時代(1300年)と云われていますが、実際にはもっと古い時代ではないかとの説もあるようです。現今では忘れられようとしている民謡の極(一部を紹介します。)

(田植歌)

五月三十日野田んぼで暮す 未の六月ア親里に
ヨイトシヨ ヨイトシヨ そりや植えそりや植え

(木挽き歌)

ヤレー木挽きや山中の山小屋で

こけら並べて味噌を焼く

(盆踊り歌)

竹の切株溜まりし水は

すまづ濁らずコーリヤ出ずいらず ヤレコイ サーコイ

(亥の子歌)

こんのお家は前から繁昌 今は若代でなお繁昌

(手まり歌)

一番はじめが一の宮

二また日光東照宮

三また讃岐の金比羅さん

四では信濃の善光寺

五つ出雲の大社

六つ村むら鎮守さん

七つ成田の不動様

八つやわたの八幡さん

九つ高野の弘法大師

十で所の氏神さん

これ程信心かけたのに浪

子の病気は治らない

—以下略—

人の動き

平成19年11月1日現在

- 人口 1,655人(−7)
- 10月中の移動
- 男 777人(−7) 出生 2人 死亡 3人
- 女 878人(−0) 転入 3人 転出 9人
- 世帯数 550戸(±0)

お誕生おめでとう

青木 愛実 ちゃん 10月18日生まれ(別府住宅)
お父さん 健 浩さん
お母さん 智 子さん

お悔やみ申し上げます

岸本 越 さん(大茅) 11月8日 90歳
手槌 露子 さん(筏津) 11月11日 72歳
小林 哲夫 さん(猪之部) 11月14日 92歳
石原 譲 さん(引谷) 11月19日 64歳

幸せ多い人生を

〔野々上宏和 さん(下土居)
古田 康子 さん(京都市)
太田 瞳 さん(坂根)
永廣 健次 さん(宇治市)〕

善意の窓

(村社会福祉協議会から)

平成19年10月20日～19年11月19日

おめでとうございます

中土居 青木 伸也 様 二男潤音様 誕生内祝

お大事にしてください

塩谷 新田 敏美 様 本人 退院内祝

影石 萩原あやの 様 本人 退院内祝

ご冥福をお祈りします

塩谷 矢代 悦子 様 亡夫 伊津雄様 香典返し

坂根 草刈 勇一 様 亡姉 西澤一代様 香典返し

大茅 岸本 義樹 様 亡祖母 越様 香典返し

猪之部 小林 繁治 様 亡父 哲夫様 香典返し

坂根 草刈 満 様 亡母 みつ代様 香典返し

今月の村税

固定資産税(第4期)

国民健康保険税(第7期)

納期限：12月25日(火)

◎納期限にご注意いただき、納付をお願いいたします。
口座振替の場合は残高確認をお願いいたします。

お問い合わせ先：西粟倉村役場総務企画課

たばこは村内で買いましょう!